

令和5年度 神奈川県立相模原中央支援学校 学校運営協議会開催結果

本校の学校運営協議会を次の通り開催しました。

審議会等名称	令和5年度 神奈川県立相模原中央支援学校 第3回学校運営協議会		
開催日時	令和6年2月19日(月) 9:50~11:40		
開催場所	相模原中央支援学校 高等部多目的室		
出席者	学校運営協議会委員 6名(本校校長を含む) (4名欠席)		
問合せ先	相模原中央支援学校 副校長 窪田 譲 電話 (042)768-8510		
掲載するもの	議事録	議事概要とした理由	
審議・会議経過			
<p>1 開会</p> <p>2 学校運営協議会</p> <p>(1) 学校長あいさつ</p> <p>(2) 開催にあたって(副校長)</p> <p>本日の流れ、資料および情報保障について</p> <p>3 学校評価部会 9:50~10:00</p> <p>(1) 令和5年度 学校評価総合評価報告</p> <p>① 幼児・児童・生徒への学習指導・支援に関する取組み(研究研修 GL) 視点1</p> <p>今年度は、授業改善の協議に進行役を立てて、よりスムーズに協議が進むようにした。講演会については、教職員から、よい学びとなったという意見が多く寄せられた。公開研修会では、地域の方、他校からも参加していただき、教材展示も併せて、好評を得た。ICT活用例の紹介。これらの取組みを授業改善にいかすことができた。次年度、一人一台端末活用への対応が急務となる。「子どもに合った支援」の実践に向けて、ICT活用も含め取り組んでいきたい。</p> <p>② 進路指導・支援について(支援連携グループ GL) 視点2</p> <p>子どもたちの将来を見据え、各学部にわたる長期的な支援・進路指導を推進する。学校間交流、交流デいの報告。新型コロナウイルス感染症5類移行で、人数制限等なく実施することができた。センター的機能について、地域の小中高との連携、また相模原市立小学校教育研究会特別支援研究部会に参加して、子どもの進路について、本校進路支援担当から情報提供をした。次年度是非さらに詳しく聞きたいとの依頼があり、対応をしていきたい。</p> <p>③ 授業参観日の実施(教務 GL) 視点5</p> <p>信頼と期待に応える学校づくりを推進する取組みで、令和4年度は、個別の参観日の実施だったため、令和5年度は学部・学年ごとに年間2回実施した。</p> <p>参観者からの感想・意見の紹介。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他の保護者と一緒に参観できてよかった。他学部の様子も見ることでよかった。 ・授業参観後に授業についての説明があった方がよかった。 ・保護者が参加する形の授業参観がよいと思った。 ・授業参観日が増えるとよい。 ・廊下からの参観で、見えにくかった。 <p>次年度に向けて、授業参観はいつでもできることをあらためて周知する。</p> <p>④ 安心で安全な教育環境の整備に取り組む(総務 G 副校長) 視点5</p> <p>避難所(停電)体験訓練の報告。停電を想定した訓練で、初めての試みだった。訓練内容は各学部・学年で別の内容を同時進行で実施した。</p>			

(2) 意見交換

- ・ かなり細かく設定して取り組んでいただいたと思う。特に、中、高の作業の取組みがよいと思う。先の見通しが持てることがよい。以前、地域の学校の特別支援学級に行ったことがあるが、センター的機能を活用できることを知らない保護者が多いように思う。
- ・ お子さん一人ひとりに焦点をあてて取り組まれていることがうかがえた。しっかり取り組まれていることがわかってよかった。成人期の支援という立場から言うと、進路について、小学部の段階のお子さんを指導されている先生と、将来について情報共有していくことがとても大切で、引き続き取り組んでいただきたい。
- ・ 特別支援学校は、教育活動がよりスモールステップで丁寧に行われている。夏の公開研修での共有、子どもたちの見とり方についても学び合えていけるとよい。一人一台端末について、地域の学校では個別最適化に向けて、必要な時に個々の児童・生徒が使用している。一方、情報モラル向上への取組みが課題として挙げられる。いつでも行き来できる関係でありたい。次年度は、地域の学校での授業を相模原中央支援学校の先生に見てもらう機会を持ちたい。
- ・ 先生方はよく取り組んでいる。授業、アセスメントが、社会参加に繋がるということ意識してほしい。世の中の動きもはやい。成人期の支援の側から、自立支援法あたりから、進路選択の可能性の幅が狭まりもったいない。社会参加に胸を張って出ていけるように、開校からの理念を大切にしていってほしい。「社会参加」を目指して頑張してほしい。よい取組みに感謝する。
- ・ 学校の施設設備が整っていると思う。公開授業に地域の方が参加していると聞いている、嬉しく思う。もっともっと学校に来てもらい、素晴らしいことをしていることを見てもらいたい。そのためにどうしたらよいか考えていきたい。自治会の広報、掲示板などを活用してもらいたい。そのためには早めの時期に依頼してほしい。保護者との関係の構築について、先生方が努力していることを感じる。今後も引き続き行ってほしい。地域との連携について、夏は地域のお祭りに自治会のブースを設けた。今後そのブースを拡充していきたいと考えている。地域との連携、大いに取り組んでもらいたい。

(3) 次年度に向けて

学校教育計画(令和6年度～令和9年度)策定に向けた各グループからの意見

① 学校のミッション(県からの文章に、目標の視点の番号を振ってある)

- ・ 地域等との協働について。
障がいのあるお子さんの学びの場として、いろいろな考えがあると思うが、地域の学校での学び、特別支援学校の学びについて、選択に関しても難しい部分があると思う。親御さんへ特別支援学校のことをさらによく知ってもらいとよいのではないかと思う。
- ・ 通常級という言い方がよいかということもあるが、通常の学級において、個別の支援が必要という場合、特別支援学級などお子さんにとってよりよい支援を検討していく。社会の動きでは、フルインクルーシブを目指す動きがある。
- ・ インクルーシブ教育は、それぞれの良さを生かして、一緒に過ごす中で成長していくことは確実にある。家庭での育ちが学校で般化されるというように、家庭と学校との連携は重要で、家庭支援も必要であると思う。センター的機能について、地域の学校と子どもを育てる視点で保護者とも連携して行ってほしい。作業班での生徒の様子にもあったが、後押しをすれば、「できる」ことがある。新しい環境、緊張の中でできる体験を大切にしてほしい。
- ・ 県からミッションがくることに驚いた。学校教育目標について、バランスよく、比重をかけるところを絞っていくとよいのではないか。

- ・ インクルーシブ教育について、個々への合理的配慮をしっかりと組み立てていってほしい。働くことについて、広い意味で「役割」をもてるようにしていってほしい。「役割を担う」ということが大切である。一方、余暇が充実していると、地域でしっかり生活していくことができている。個々に応じた余暇を充実させる視点も大切にしてほしい。
- ・ 食の指導に関して、摂食については、咀嚼、嚥下の課題がある。特に、咀嚼についての取り組みにも重点をおいていってほしい。
インクルーシブ教育について、特別支援学校に入りたくても入れないケースがあると聞いている。特別支援学級の指導力向上を図っていってほしい。

4 切れ目ない支援部会（支援連携 GL）

- ・ 社会資源づくりの一環で、スポーツを通じた取り組みを行った。今後は、地域への広報の対象を拡大し、準備を早める。体験活動の啓発に取り組む。
- ・ 今後、地域とポッチャなどの取り組みについて情報共有していけるとよい。
- ・ ポッチャに取り組む団体が多いので、公民館など、相模原市における様々な活動と関わっていけるとよいのではないかと考える。

5 地域交流部会（高等部副学部長）

- ・ 「地域とは」についてあらためて振り返り、学校で何ができるか考えてまとめた。学部ごとの取り組みの報告。校外行事などで地域資源を活用して学習活動を行っている。地域での理解者を増やし、地域で生きるための土台づくりをしていければと考える。地域と学校をいかにつないでいくかが大切であると考える。
- ・ 文言をわかりやすく、やわらかく、具体的に表現できるとよいのではないかと考える。

6 閉会

副校長より

一年間ありがとうございました。委員の皆様の御意見を受けて、この学校をどうしたいかを考えていきたいと思っております。